

23. 平成3年度「森林倶楽部」を実施して

管理課 小野隆次

1 はじめに

林野庁は、平成元年6月 森林ふれあい推進事業 —— 愛称 森林倶楽部 —— を発足させたところである。

森林倶楽部とは、

国有林野等において、

- ・都市住民等が森林の中で自然と親しみ、学ぶ喜びを味わうことができるよう森林とのふれあいの場を提供し
- ・より一層の国有林野の利用を図り
- ・国民の福祉の増進に寄与しようとするもので

森林に対する理解が深められるよう営林局・署等が森林情報等の提供を行うとともに、

- ・森林浴、学術上貴重な森林の見学、野鳥・植物観察、きのこ狩り、山菜取り等の森林と親しむ活動
- ・植林、育林、伐採、きのこ栽培、炭焼き、木材加工等の体験活動
- ・森林教室、山菜料理教室、林業・製材工場の見学等の学習活動

のようなイベントを実施する。

加入者の単位は、個人と家族の2通りがあり、個人5千円、家族1万円であるが分収育林契約者の場合は、千円引きとなる。

また、イベントに参加する場合は、参加費が必要で、森林インストラクター等の人件費、旅費、資料・材料費、貸切りバスの借上げ料等の経費である。

なお、加入者は全国どこの営林（支）局が主催する森林倶楽部イベントにも参加することができる。

加入者へのサービスとしては、森林とのふれあいに関する情報紙の提供、国有林材を素材とする木製章の贈呈、全国各地の林野庁関連宿泊施設、全国有名観光地の提携宿泊施設、国設スキー場等が割引料金で利用できる等の特典がある。

以上が森林倶楽部の趣旨、内容等である。

2 平成3年度森林倶楽部会員募集と加入状況

森林倶楽部の会員募集は、6月6日公示、締切日は1か月後の7月5日とした。

会員募集のPRとしては、マスコミに対しては営林局業務方針発表、さらには公示前日記者発表を行い、新聞等にも取り上げられた。また、青森、八戸市内にチラシを約2万枚宅配した。

この結果50件近い資料請求があったが、最終的には個人18口、家族3口31名の加入にとどまった。

男女別は、男性17名、女性14名。

年齢は、8歳から76歳までほぼ均等にわたっている。26名が青森市内在住である。

ちなみに、平成3年度の林野庁全体の森林倶楽部会員は、8営林（支）局で1,340名となっている。

3 平成3年度実施イベントの概要

平成3年度は次の3回のイベントを実施した。

(1) 第1回イベント

7月21日 眺望山自然休養林において「眺望山登山と森林浴」。参加者は、小学3年生から66歳までの17名。

登山しながらの植物観察と森林浴、午後は溪流に設けた人工浅瀬でのイワナのつかみ捕り、ヒバ輪切り材をつかっただのプリントごっこによる記念品作り、シイタケ狩りを体験。

(2) 第2回イベント

9月8日 八甲田山において「八甲田登山と高山植物観察」。参加者は、北は札幌、南は大阪等他局からの参加者も含めて23名。

赤倉岳・井戸岳を踏破。

(3) 第3回イベント

10月21日 奥入瀬溪流を中心に「十和田湖・奥入瀬溪流の紅葉狩り」。参加者は、札幌局の会員も含めて18名。

奥入瀬溪流を散策、植生観察を実施。

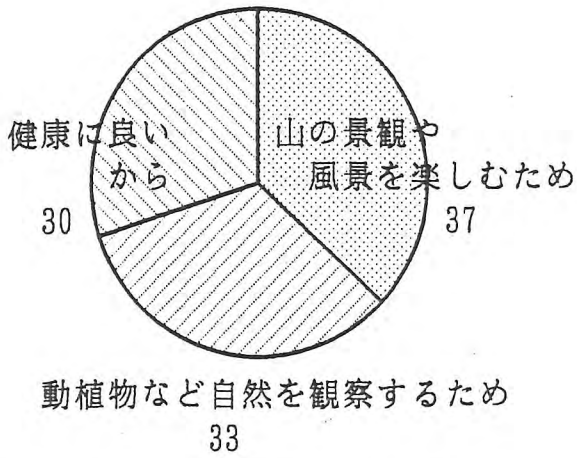
4 アンケートの実施とその結果

会員の真の声を聞くとともに、来年度以降の森林倶楽部活動計画の参考とするためアンケートを実施した。

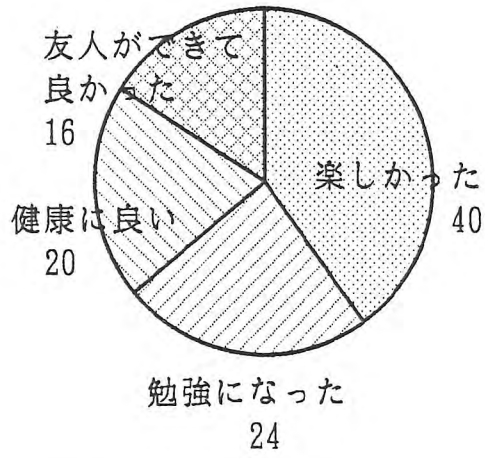
他局からのイベント参加者を含め、25名中18名からの回答があった。

アンケートの結果をまとめると次のとおりとなった。

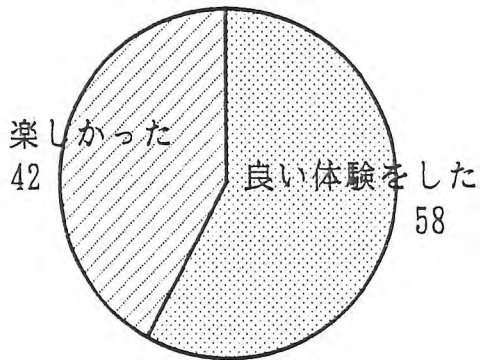
「森林倶楽部」に加入した目的



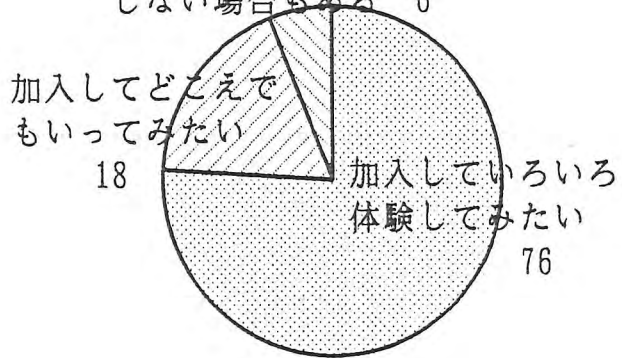
「森林倶楽部」に加入してみたいかがでしたか



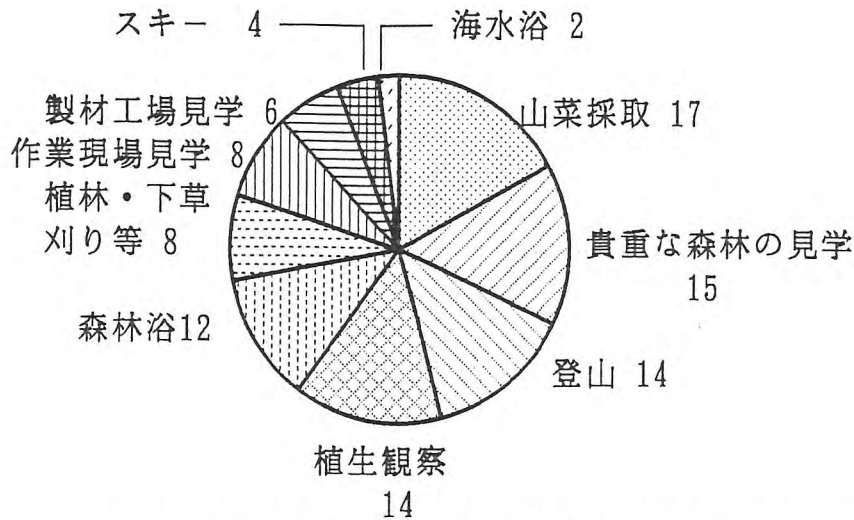
イベントの内容はいかがでしたか



来年度も「森林倶楽部」に加入したいと思いますか
イベントの場所によって加入しない場合もある 6



体験してみたいこと



その他の意見として、会員加入促進には加入費を安く参加費を高く・イベントの回数を増やす・森林倶楽部のワッペンを作る・親睦会を開いておおいに騒ぐ・宿泊してでも他県へ行ってみたい等があった。

以上のように、アンケートの結果では、まずまずであったと思われる。

しかしながら、予想外の会員加入の不振があった。

5 会員加入不振の原因

会員加入不振の原因としては、

(1) PRの方法

資料請求のあった時期等から推定すると、マスコミ報道の直後に集中しており、チラシ宅配はあまり効果がなかった。

(2) 市民は、「森林倶楽部」に加入しなくても容易に森林に親しむことができると言う事情

(3) 従来営林局・署が実施してきた植樹祭、森林教室等にしても無料であり、「森林倶楽部」についても当然無料とのイメージがあった

(4) イベント内容の周知不足

が考えられる。

6 今後の検討課題

以上のような状況の中で、平成4年度以降の「森林倶楽部」会員の加入増を図るために次のことを検討して参りたい。

- ・PRは最大限マスコミ活用を図る

- 会員の意向を尊重し，自然観察を主体としたイベントを開催する
- 営林局・署ならではのイベントの創意工夫
- 出来るだけ参加費の圧縮を図る
- 仙台，盛岡市を中心としたイベントの検討

以上を踏まえつつ，平成4年度以降の「森林倶楽部」会員増を図るよう努めていく考えである。